事例No.	1111
公表年度	R2
団体の属性	中核市
団体名	兵庫県姫路市

事例区分	一般行政

タグ	・税財政 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	間伐や路網整備等の取組

事例内容・タイトル

森林の現況把握及び条件不利地の間伐促進

出典

森林環境譲与税の取組事例集（令和２年10月）

兵庫県　姫路市（森林の現況把握及び条件不利地の間伐促進）

- 姫路市北部の森林は、戦後の拡大造林推進期に植林されたスギ・ヒノキ人工林が大半を占めている。
- しかし、既存の対策では森林整備が十分に進んでおらず、未整備のまま高齢級化した森林も多い。
- また、森林簿、森林計画図の情報のみでは、林分を十分に把握できない等、優先的に整備を行うべき森林の具体的な場所の抽出が困難である。
- このため姫路市では森林環境譲与税を活用し、令和元年度においては、次の事業を実施した。

① 森林整備（森林資源量等調査解析）
：航空レーザー計測により、森林資源を調査・解析し、今後の森林整備していく上で必要な情報を収集・把握

② 森林整備（条件不利地間伐推進）
：奥地等の条件不利地の森林において、森林の持つ公益的機能を高めるための間伐を支援し森林整備を促進

□ 事業内容

1　森林資源量等の調査解析

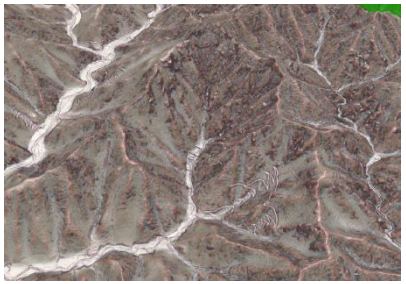
- 人工林を中心に、森林における航空レーザー計測により、森林資源を調査・解析し、今後の森林整備していく上で必要な情報を収集・把握し、森林整備の促進を図る。

【事　業　費】22,876千円（全額譲与税）
【実　　績】航空レーザー計測　65k㎡（姫路市北部の約半分）
（令和２年度以降に資源量解析等を実施予定）

2　条件不利地の間伐推進

- 森林経営計画の作成が困難で、間伐が滞っている奥地等の条件不利地の森林において、森林の持つ公益的機能を高めるための間伐を支援し森林整備の促進を図る。

【事　業　費】1,139千円（全額譲与税）
【実　　績】間伐　6.3ha



（事業１：作成したCS立体図）



（事業２：間伐実施状況）

□ 事業スキーム

2　条件不利地の間伐推進

市 → 補助 → 森林組合 林業事業体等 → 間伐 → 所有者

□ 工夫・留意した点

- １の事業については、人工林を中心に航空レーザー計測が行えるように、既存の樹種区分図を活用し計測区域の設定を行った。
- ２の事業については、標準単価方式ではなく、事業地ごとに積算を行い、事業地の実情に合わした補助額としている。

◇ 基礎データ

①令和元年度譲与額	35,039千円
②私有林人工林面積（※１）	9,939ha
③林野率（※２）	57.3%
④人口（※３）	535,664人
⑤林業就業者数（※４）	71人

※１：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」
※２：「2015農林業センサス」　※３，４：「H27年国勢調査」